佐久市埋蔵文化財報告書　第118集

近津遺跡群

東近津遺跡（ひがしちかつ）

長野県佐久市近津遺跡群東近津遺跡発掘調査報告書

2004.3

佐　久　市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財報告書　第118集

近津遺跡群

東近津遺跡（ひがしちかつ）

長野県佐久市近津遺跡群東近津遺跡発掘調査報告書

２００４．３

佐　　久　　市
佐久市教育委員会

Nトレンチ全景(西より)

Nトレンチ全景(東より)

Sトレンチ全景(東より)

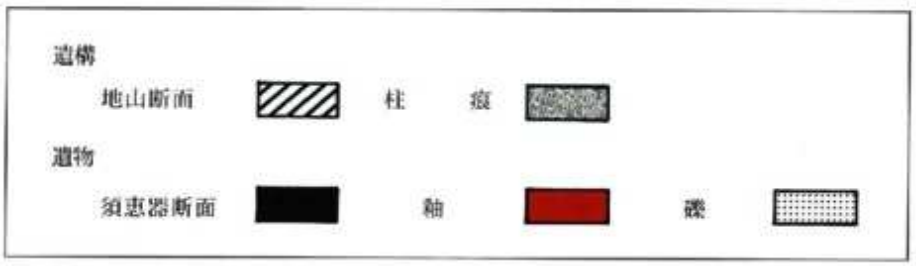
Sトレンチ全景(西より)

例　言

1．本書は平成15年度の佐久市高速交通課による道水路新設改良事業(近津神社前)に伴う発掘調査の報告書である。
2．発掘調査は、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3．本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図(1：25,000)、佐久市発行の基本図(1：2,500)を使用した。
4．発掘調査は小林眞寿・森泉かよ子が担当し、本書の執筆・編集は森泉が行い、小林眞寿が校閲した。
5．本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1．遺構の略号は次の通りである。
　F－掘立柱建物址、D－土坑、P－単独ピット、M－溝址
2．遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。
3．挿図中の遺構の縮尺は原則として1／80である。異なる場合は図中に明記してある。
4．挿図中の遺物の縮尺は1／4である。異なる場合い図中に明記してある。
5．挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。



目　次

巻頭図版
例　言
凡　例
目　次

第Ⅰ章　発掘調査の概要 …… (1)
　第1節　調査の経緯 …… (1)
　第2節　調査組織 …… (2)
　第3節　調査日誌 …… (2)
　第4節　検出遺構・遺物の概要 …… (3)

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… (4)

第Ⅲ章　基本層序 …… (7)

第Ⅳ章　遺構と遺物 …… (8)
　第1節　掘立柱建物址 …… (8)
　第2節　土坑 …… (9)
　第3節　単独ピット …… (11)
　第4節　溝址 …… (12)
　第5節　トレンチ出土遺物 …… (13)
第Ⅴ章　まとめ …… (13)
引用参考文献
付表　遺構一覧表
写真図版

挿図目次

第 1 図　近津遺跡群東近津遺跡位置図(1:50,000) …… (1)
第 2 図　東近津遺跡遺構配置図(1:1,000) …… (3)
第 3 図　周辺遺跡分布図(1:25,000) …… (5)
第 4 図　東近津遺跡発掘区設定図(1:5,000) …… (6)
第 5 図　基本層序模式図 …… (7)
第 6 図　東近津遺跡全体図(1:300) …… (8)
第 7 図　F1号掘立柱建物址 …… (8)
第 8 図　D1～D4号土坑 …… (9)
第 9 図　D5・D6号土坑 …… (10)
第10図　単独ピット …… (11)
第11図　M1～M4号溝址 …… (12)
第12図　トレンチ出土遺物 …… (13)

第Ⅰ章　発掘調査の概要

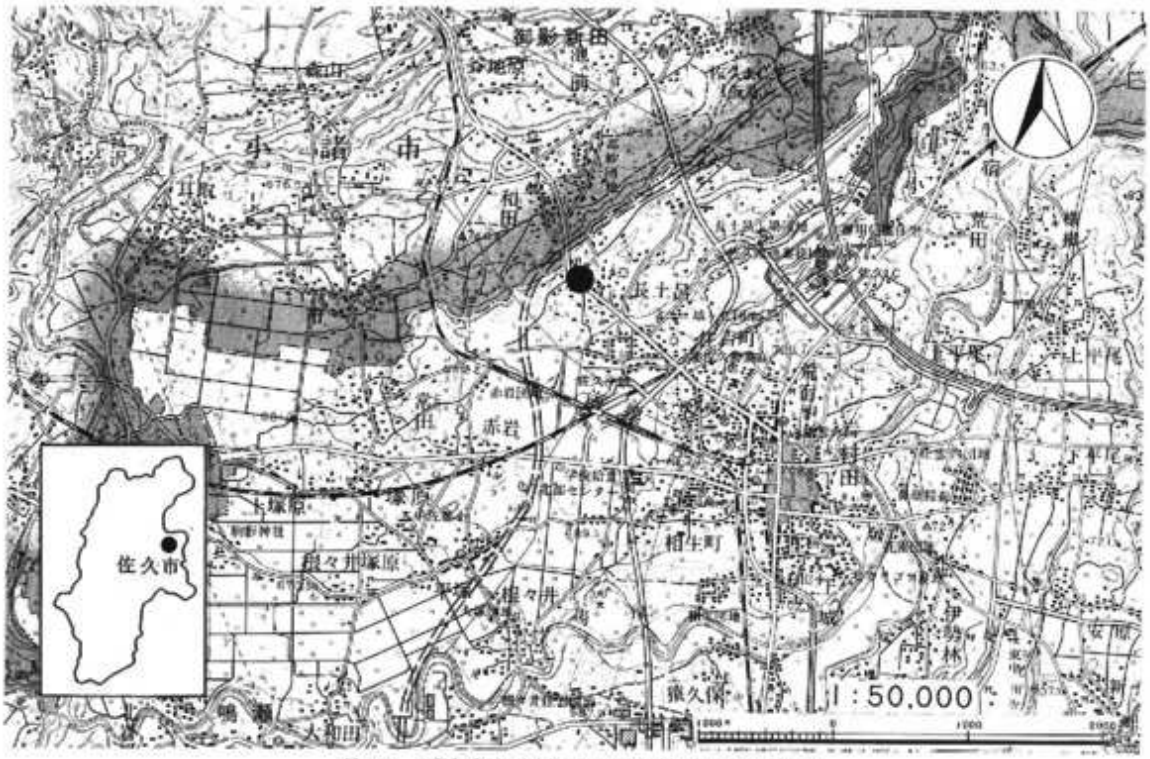
第1節　調査の経緯

東近津遺跡は佐久市の北部、佐久市長土呂にあり、浅間山麓の放射状に延びる「田切り」地形の発達する地点にある。この細長い台地上には多くの遺跡群が存在する。本遺跡近津遺跡群では、国道を挟む北西で昭和46年に西近津遺跡が発掘調査され、弥生時代後期1棟、古墳時代後期3棟の竪穴住居址が検出されている。また田切りをこえてすぐ南では周防畑遺跡群南近津遺跡が平成9年に調査され、古墳時代後期14棟、奈良時代10棟、平安時代7棟、不明4棟の計35棟の竪穴住居址、掘立柱建物址3棟等が検出されている。

今回、道水路新設改良事業が本地籍で計画され、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。事業によりこれらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、発掘調査をする運びとなり、佐久市教育委員会文化財課が調査を実施した。

なお、発掘調査は拡幅部のみで、現道部分は水道、下水道等により既に破壊をうけており、遺構も破壊されていることから調査はしていない。

遺　跡　名　近津遺跡群東近津(ひがしちかつ)遺跡(略号　NHT)
所　在　地　佐久市大字長土呂字東近津1181-21　外
調査原因者　佐久市高速交通課
開発事業　道水路新設改良事業
発掘調査期間　平成15年11月18日 ～ 12月4日
整理調査期間　平成15年12月 ～ 平成16年3月
調査面積　134㎡(開発対象面積503.09㎡)



第1図　近津遺跡群東近津遺跡位置図(1:50,000)

第２節　調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会教育長　髙　柳　　勉					
事　務　局	教育次長	赤羽根　寿文				
	文化財課長	嶋崎　節夫				
	文化財係長	髙村　博文				
	文化財係	林　幸彦	三石　宗一	須藤　隆司	小林　眞寿	冨沢　一明
		上原　学	赤羽根太郎	出澤　力		
調査体制						
	調査担当者	小林　眞寿	森泉　かよ子			
	調査副主任	堺　益子				
	調査員	小林百合子	林　美智子	佐藤　愛子	清水　幸子	中條　悦子
		羽田　貴恵	細谷　秀子	柳沢千賀子	山浦　豊子	

第3節 調査日誌

平成15年

11月18日

現道の南側拡幅部に重機を入れ、耕作土の除去を行い、遺構検出を行う。

遺構が検出されたので、発掘調査を開始する。

機材の搬入。

11月19日

現道北側拡幅部に重機を入れ遺構検出を行う。

プラン確認図作成後、23日に近津神社で祭礼があるため北側は埋戻す。

11月24日

重機により、北側拡幅部再度表土剥ぎ。

11月28日

南側拡幅部調査終了。

11月29日

南側拡幅部を重機により埋め戻す。

12月３日

北側拡幅部の調査終了。機材撤収。

12月４日

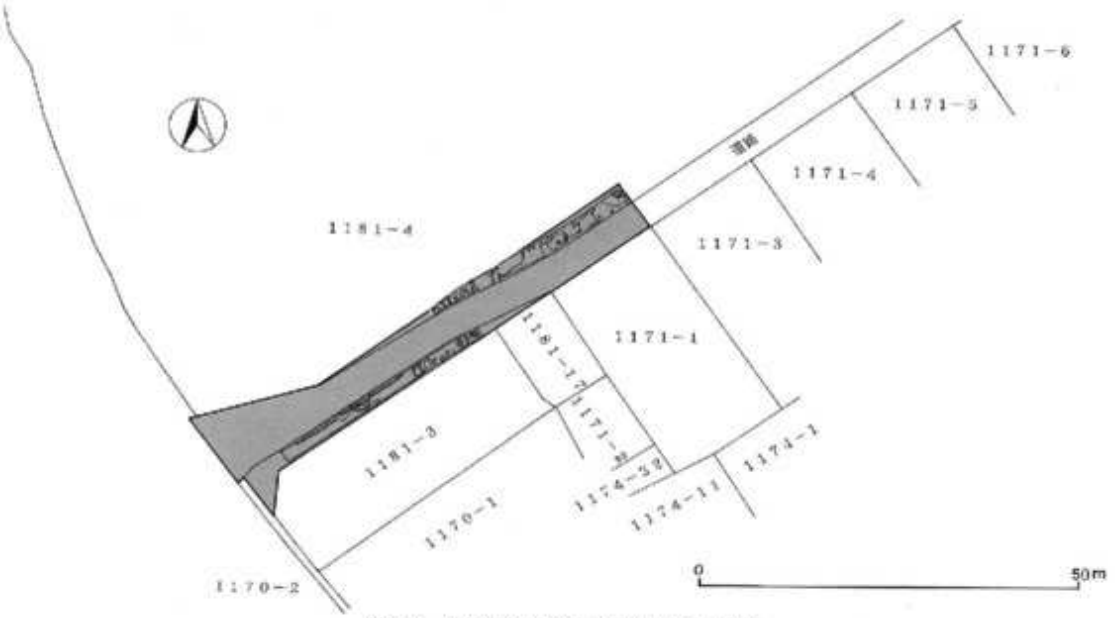
北側拡幅部を重機で埋め戻す。

12月４日～平成16年３月31日

室内にて、遺物洗浄・遺物注記・遺物実測・実測図トレース・図面修正・報告書編集作業を行い、報告書を刊行する。

第4節　検出遺構・遺物の概要

遺　構		遺　物		
竪穴住居址	なし	土器	石器	金属器
掘立柱建物址	1棟	土師器	石鏃片	鉄製釘
単独ピット	29個	須恵器	編物石	鉄製鏃
土　坑	6基	陶磁器	スリ石	
溝	4本		砥　石	
			石　盤	



第2図　東近津遺跡遺構配置図(1:1,000)

掘立柱建物址・ピット群・土坑・溝址が検出されたが、住居址はなかった。時代がわかる遺構は少なく、D1号土坑は土師質皿が出土し、近世であろうか。D6号土坑からは凝灰岩製の砥石などから奈良・平安時代頃と推測される。M1号溝址は上限はわからないが下限は磁器などから近代まで使用されていた道路で、今の舗装された道路の前に使用されていた道であろう。

遺物は古墳時代後期の土師器甕片・鉢片、奈良・平安の須恵器甕・杯片を出土している。本遺跡では竪穴住居址はなかったが、周囲にこれらの時代の竪穴住居址があることは土器片から推測される。

第4図に周辺遺跡の発掘調査による竪穴住居址の分布を示したが、近津神社周辺の北近津・西近津遺跡では古墳時代中期の竪穴住居址があり、集落をなしていた。南の周防郷遺跡群では古墳中期の竪穴住居址はなく、古墳後期後半～奈良時代の住居址が中心となっている。近津神社付近は古墳時代中期5C頃に集落がみられ、その南の周坊畑遺跡群では7～8C頃の集落がみられる。近津神社付近は古東山道通過地点諸説の中の一つとされ、(井出正義、1995『佐久市志歴史編(一)』「東山道と佐久」)、古墳から奈良時代の集落がみられることは注目される。

また、本遺跡の西、西近津遺跡から弥生後期の住居址が検出されており、南の森下遺跡に検出された弥生時代後期の集落が近津神社付近まで広がっていた。

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

東近津遺跡は佐久市の北部、小諸市との境にあり、浅間第１軽石流（Ｐ１）が堆積をなしている。「田切り」地形が発達し、東近津遺跡はその台地上の遺跡で近津遺跡群の一つである。近津神社の南にあり、鬱蒼たる松林に隣接している。台地の南辺にあたり、すぐ低い田切りに接している。小諸市境となる大川切りは「湧玉用水」ともよばれ、御代田町湧玉からの湧水を流下させており、その周辺に水田耕地村落が早くから発達したところである。この田切りと本遺跡の台地の南北間は約150m程しかなく幅狭い台地となっている。しかし、南の田切りは浅く、規模などから古代においては、近津遺跡群、西近津遺跡群、周防畑遺跡群は同一の台地と考えられる。

周囲の発掘調査状況をみると、昭和46年に国道を挟んですぐ西の4-1西近津遺跡群西近津遺跡と150m程北東の2-1近津遺跡群北近津遺跡が発掘調査されている。西近津遺跡では弥生後期１棟と古墳時代中期１棟、古墳時代後期２棟の竪穴住居址と北東錐を伴う中世以降の溝址８本が検出されている。北近津遺跡では古墳時代中期３棟、古墳時代後期１棟の竪穴住居址、外に時期・性格不明の土坑３基と単独ピットが検出されている。隣接して近津古墳が確認されている。

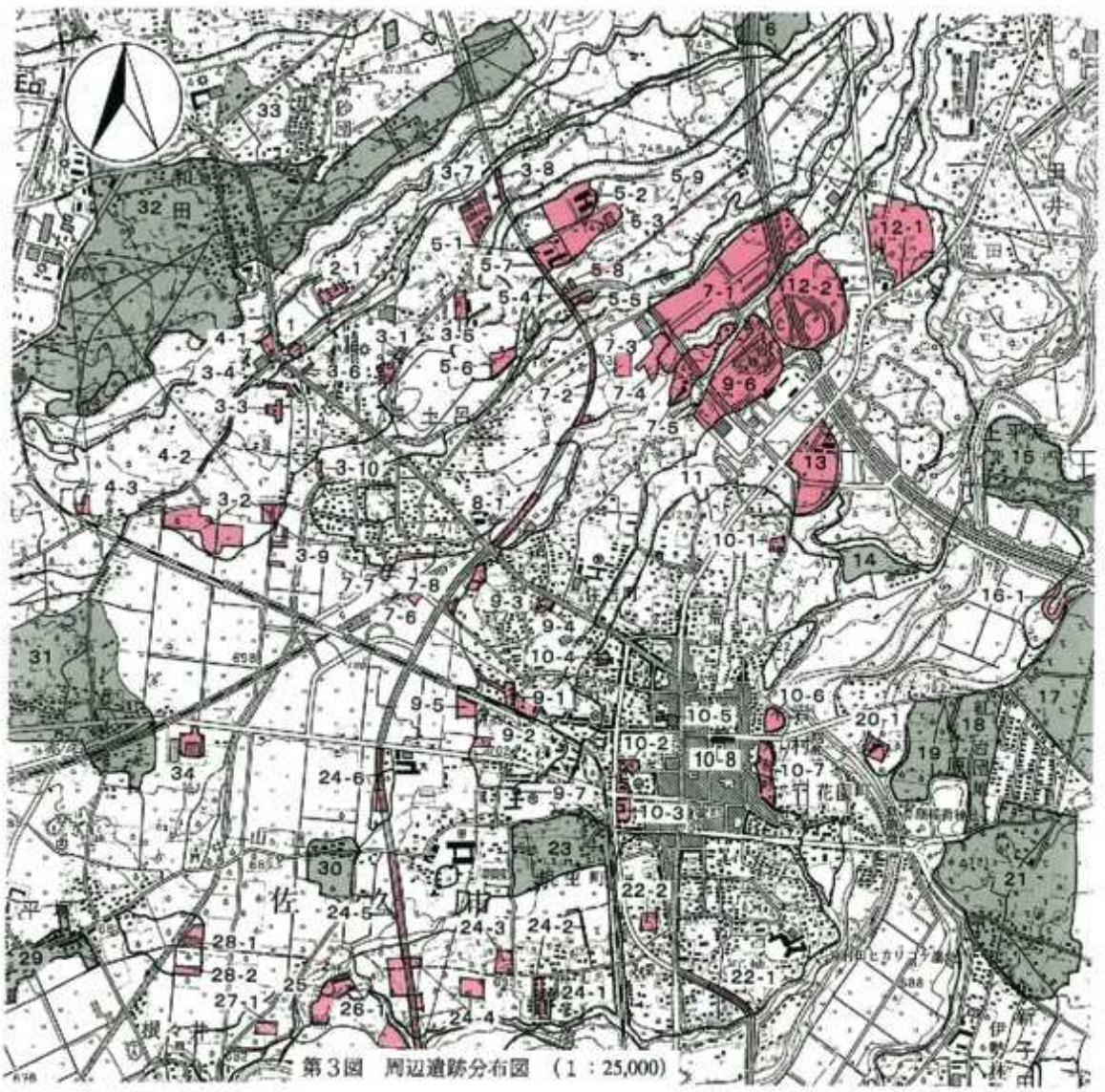
西近津遺跡群の南辺を昭和63年に4-2森下遺跡、平成２年に4-3下貝畑遺跡を発掘調査している。弥生時代後期、古墳後期後葉から奈良・平安時代の住居址が調査されている。浅い田切りを挟んで南の台地、周防畑遺跡群では、昭和54・55年に周防畑Ａ遺跡・周防畑Ｂ遺跡、昭和58・平成３年若宮遺跡、平成９年に南近津遺跡が調査されている。若宮遺跡では古墳時代後期～平安時代、ことに古墳後期末～奈良時代の住居址が検出されている。南近津遺跡では、古墳時代後期～奈良を主体として平安時代の竪穴住居址が密集して検出されている。弥生時代後期の土壙墓と思われる土壙１基もある。

周囲を概観してみると弥生時代後期の竪穴住居址、古墳時代中期・後期の竪穴住居址、奈良・平安時代竪穴住居址、中世以降の溝址などがみられ、弥生時代後期、古墳時代中期から後期、奈良・平安時代・中世の遺構が分布し、集落を形成してた様子がわかってきている。

第1表　周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	調査年度	検出遺構・出土遺物等
1	近津遺跡群若宮遺跡	長土呂字東近津	平成15年度	掘立柱建物址1、土坑6、溝4　本調査
2-1	近津遺跡群北近津遺跡	長土呂字北近津	昭和46年度	住居址13、土坑7
3-1	周防畑遺跡群周防畑Ａ遺跡	長土呂字南下北原	昭和54年度	住居址5、溝3
3-2	周防畑遺跡群周防畑Ｂ遺跡	長土呂字大豆田下中田	昭和54・55年度	住居址41、掘溝2、土坑17
3-3	周防畑遺跡群若宮遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字若宮	昭和58・平成3年度	住居址16（古墳～平安）
3-4	周防畑遺跡群西近津遺跡	長土呂字南近津	平成9年度	住居址35、掘立柱建物址3、土坑1、溝3
3-5	周防畑遺跡群入高山遺跡	長土呂字入高山	平成11年度	住居址8、掘立柱建物址5、周溝1、溝3
3-6	周防畑遺跡群Ⅰ	長土呂字東近津	平成4年度	検出遺構なし
3-7	周防畑遺跡群5	長土呂字入高山	平成7年度	検出遺構なし
3-8	周防畑遺跡群群中神田遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字中神田	平成11・平成12年度	住居址3、掘立柱建物址1、土坑22、溝6
3-9	周防畑遺跡群辻の前遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字辻の前	平成11・平成12年度	住居址17、掘穴状遺構1、土坑10、溝9
3-10	向畑遺跡1	長土呂字向畑	平成3年度	検出遺構なし
4-1	西近津遺跡群西近津遺跡	長土呂字西近津	昭和46年度	住居址4
4-2	西近津遺跡群森下遺跡	長土呂字森下	昭和63年度	住居址20、特殊遺構3、土坑29、溝6
4-3	西近津遺跡群三番畑遺跡	長土呂字三番畑	平成2年度	住居址4
5-1	芝宮遺跡群芝宮遺跡　第一次	長土呂字北下中原	昭和54年度	土坑7、溝2
5-2	芝宮遺跡群芝宮遺跡　第二次	長土呂字北中中原	昭和55年度	土坑7、溝2
5-3	芝宮遺跡群芝宮遺跡　第三次	長土呂字北下中原	昭和57年度	土坑7、溝2
5-4	芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅰ～Ⅳ	長土呂字下芝宮	昭和62・昭和63・平成2年度	住居址9、掘立柱建物址6、土坑13、溝13
5-5	芝宮遺跡群南上中原・南下中原	長土呂字南上中原・南下中原	昭和63・平成5年度	住居址15、掘穴状遺構1、掘立柱建物址5、土坑1、溝2
5-6	芝宮遺跡群高山遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字下高山	平成5・平成6年度	住居址31、掘立柱建物址15、土坑27、溝5
5-7	芝宮遺跡群上高山遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字上高山	平成7・平成8年度	住居址3、掘立柱建物址5、溝1
5-8	芝宮遺跡群上芝宮遺跡Ⅰ～Ⅵ	長土呂字上芝宮	平成4～平成9年度	住居址16、掘立柱建物址3、土坑6
5-9	芝宮遺跡群下谷地遺跡Ⅱ～Ⅵ	小田井	平成6～平成11年度	住居址109、掘穴状遺構2、掘立柱建物址41、土坑9、溝5
6	笹城遺跡	小田井字笹城城		縄文～平安
7-1	長土呂遺跡群屋敷遺跡Ⅰ・Ⅱ～Ⅶ・Ⅸ	長土呂字上屋敷・新城	平成1～平成7年度	住居址975、掘立柱建物址850、土坑435、溝77
7-2	長土呂遺跡群下馬場遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	長土呂字下馬場	昭和63・平成4・平成11年度	住居址55、掘穴状遺構2、掘立柱建物址40、土坑4、溝13
7-3	長土呂遺跡群上屋敷遺跡	長土呂字上屋敷	昭和63平度	住居址47、掘穴状遺構2、掘立柱建物址21、土坑2、溝12
7-4	長土呂遺跡群堅原遺跡Ⅹ	長土呂字上堅原	平成7年度	住居址35、掘立柱建物址39、土坑32、溝8

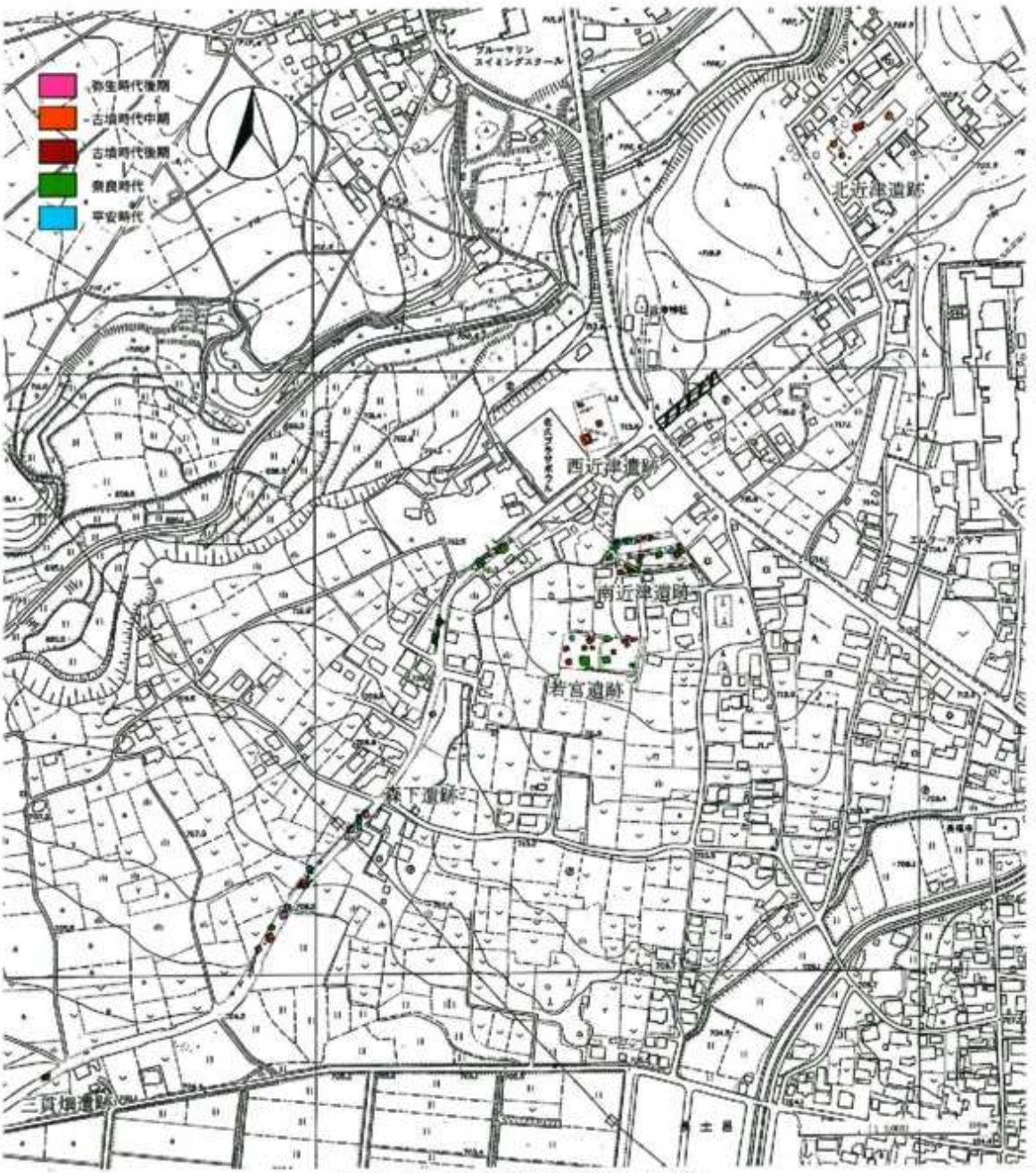
No	遺跡名	所在地	調査年度	検出遺構・出土遺物等
7-5	長土呂遺跡群菅根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ	長土呂字新城・下六虫	平成1～平成5年度	住居址20、掘立柱建物址7、土坑34、溝13
7-6	長土呂遺跡群下伯母塚遺跡	長土呂字下伯母塚	平成9年度	住居址9、溝5
7-7	長土呂遺跡群上村遺跡	長土呂字上村	平成7年度	土坑1、溝3
7-8	長土呂遺跡群上前田遺跡	長土呂字上前田	平成8年度	土坑25、溝3
8-1	下蟹沢遺跡群下蟹沢遺跡	長土呂字下蟹沢	平成1年度	検出遺構なし
9-1	牝杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	岩村田字円正坊外	昭和59・平成11～平成13年度	住居址34、掘立柱建物址21、用溝17、土坑7、溝6
9-2	牝杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅱ・Ⅴ	岩村田字円正坊外	平成8・平成11・平成14年度	住居址13、掘立柱建物址1、古墳址1、土坑10
9-3	牝杷坂遺跡群血路遺跡Ⅰ～Ⅲ	岩村田字西路	平成9～平成11年度	住居址17、竪穴状遺構3、掘立柱建物址1、用溝2、土坑30、溝6
9-4	牝杷坂遺跡群上原路遺跡	岩村田字上原路	昭和60年度	住居址2、溝2、鋼鐵
9-5	牝杷坂遺跡群清水田遺跡Ⅰ～Ⅲ	岩村田字清水田	昭和53・平成10年度	住居址20、溝2
9-6	牝杷坂遺跡群上久保田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅶ	岩村田字上久保田	平成1～平成6年度	住居址45、掘立柱建物址48、土坑19、溝19、河川跡1
9-7	牝杷坂遺跡群長石遺跡	岩村田字長石	昭和52年度	土坑2（弥生後期赤槽墓1）
10-1	岩村田遺跡群六供後遺跡	岩村田字六供後	昭和55年度	溝
10-2	岩村田遺跡群内西浦遺跡Ⅰ～Ⅲ	岩村田字内西浦	平成1・2・12年度	住居址10、竪穴状遺構7、掘立柱建物址、土坑21
10-3	岩村田遺跡群柳堂遺跡	岩村田字柳堂	平成10年度	住居址3、竪穴状遺構33、掘立柱建物址2、土坑211,溝23、用溝3、特殊遺構7
10-4	岩村田遺跡群上木戸遺跡	岩村田字上木戸	平成13年度	住居址1、掘立柱建物址1、土坑8、用溝1
10-5	岩村田遺跡群中宿遺跡	岩村田字中宿	平成9年度	住居址3、竪穴状遺構7、土坑14、墓坑
10-6	岩村田遺跡群王城跡	岩村田字古城	昭和54年度	掘立柱建物址1、土坑
10-7	岩村田遺跡群茶岩城跡	岩村田字古城	昭和55・59年度	住居址15、竪穴状遺構54、掘立柱建物址3、土坑286
10-8	岩村田遺跡群菅田遺跡Ⅰ～Ⅳ	岩村田字菅田	昭和59～平成1年度	溝1
11	中久保田遺跡	岩村田字中久保田		弥生～平安



第3図　周辺遺跡分布図　（1：25,000）

第２表　周辺遺跡竪穴住居址遺構一覧

遺跡名	弥生後期	古墳中期	古墳後期	奈　良	平　安	不　明	
北近津遺跡		3	1				13棟の内4棟調査
西近津遺跡	1	1	2				
南近津遺跡			14	10	7	4	
若宮遺跡			9	4	2		
森下遺跡	5		3	8	4		
三貫畑遺跡	2			2			

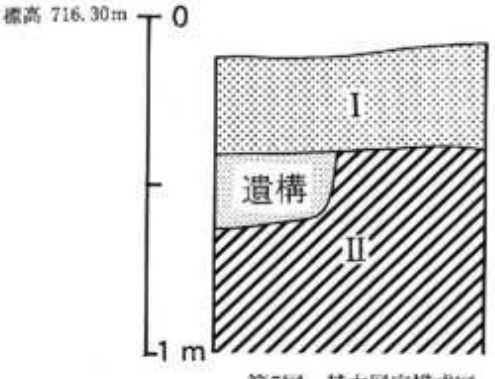


第4図　東近津遺跡発掘区設定図(1:5,000)

No	遺跡名	所在地	調査年度	検出遺構・出土遺物等
12-1	菱毛坂遺跡群新浦B遺跡	小田井字前畑B	平成8・平成9年度	住居址10、竪穴状遺構82、掘立柱建物址4、土坑939、溝38
12-2	菱毛坂遺跡群西笛原遺跡Ⅱ・Ⅲ	岩村田字西笛原	平成3・平成5年度	掘立柱建物址7、土坑1、河川跡1
13	西寺庄遺跡	岩村田字西寺庄	平成14年度	住居址、溝
14	上岩子遺跡	岩村田字上岩子		平安
15	道石遺跡群	上平尾字道石		弥生～平安
16-1	諏訪遺跡群諏巻・西大久保Ⅱ	上平尾字諏巻・西大久保	昭和62年度	住居址7、竪穴状遺構1、土坑4、溝4
17	西大久保遺跡群	上平尾字西大久保		縄文～平安
18	種敷遺跡	安原字種敷		平安
19	上小平遺跡	岩村田字上小平		平安
20-1	下小平遺跡	岩村田字下小平	昭和55年度	住居址6、土坑14、溝2、周溝2
21	岩塚遺跡群	安原字岩塚		平安
22-1	上の城遺跡群上の城遺跡	岩村田字上の城上所迫	昭和48年度	住居址49、土坑131、溝7、特殊遺構1
22-2	上の城遺跡群観音堂遺跡	岩村田字観音堂	平成9年度	住居址1、竪穴状遺構27、溝3、土壙墓4
23	宮の後遺跡	岩村田字宮の後		弥生～中世
24-1	一本柳遺跡群東一本柳遺跡	岩村田字東一本柳	昭和43年度	住居址5
24-2	一本柳遺跡群東大門遺跡	岩村田字東大門	平成1年度	溝2
24-3	一本柳遺跡群北一本柳遺跡	岩村田字北一本柳	昭和47年度	住居址16、土坑51
24-4	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅸ	岩村田字西一本柳	平成3～平成14年度	住居址405、竪穴状遺構1、土坑101、溝66、周溝4
24-5	一本柳遺跡群中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田字中長塚	平成8～平成10年度	水田址
24-6	一本柳遺跡群松の木遺跡Ⅰ～Ⅱ	岩村田字松ノ木	平成8～平成10年度	住居址17、掘立柱建物址1、土坑2、溝5
25	北西の久保遺跡・吉塚群	岩村田字北西の久保	昭和44・45・57・60年度	住居址158、周溝墓、水稲耕作址か
26-1	中西の久保遺跡群中西の久保遺跡Ⅰ～Ⅳ	岩村田字中西の久保	平成4・7・9・10年度	住居址91、掘立柱建物址15、土坑4、溝7
27-1	塩澤遺跡群北堂田遺跡	横々井字五堂田	平成9年度	住居址43、掘立柱建物址2、土坑37、溝7、周溝3、周溝2
28-1	西一里塚遺跡群西一里塚遺跡	岩村田字西一里塚	昭和48年度	住居址11、竪穴状遺構1、土坑1、溝6、環溝
28-2	西一里塚遺跡群新田遺跡	岩村田字堀内	昭和48年度	溝3、水路1（近代）
29	塚原屋敷添遺跡	塚原字屋敷添		平安
30	上狭田遺跡	岩村田字上狭田		弥生～平安
31	笠田屋敷敷遺跡群	笠田字屋敷		弥生～平安
32	新田原遺跡群	小諸市字新田原		縄文～平安
33	入北原遺跡	小諸市字入北原		古墳～平安
34	屋り遺跡	塚原字屋り・丸山	平成4年	水田址・溝

第Ⅲ章　基本層序

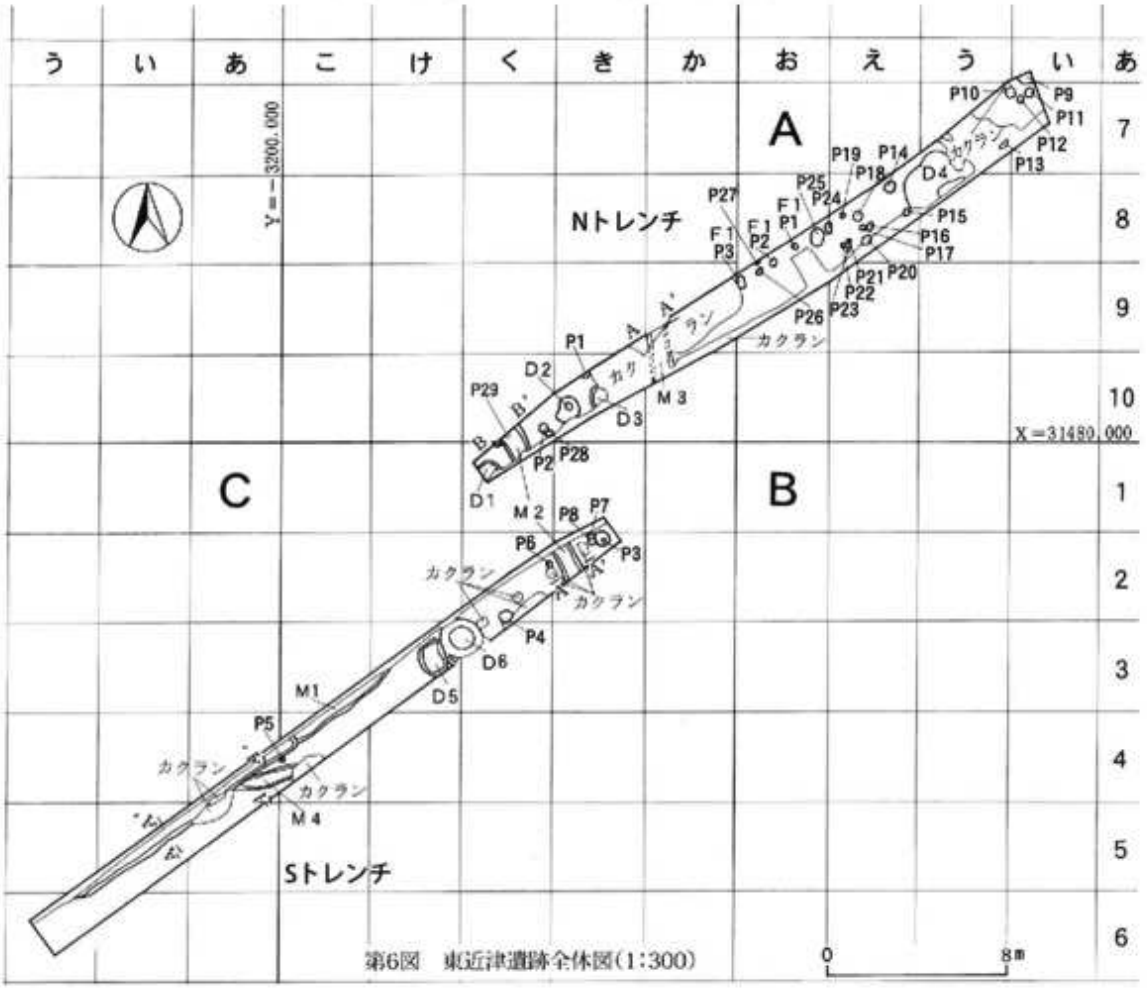
近津遺跡群東近津遺跡の立地は浅間第１軽石流が基盤をなしている。耕作土は全般に浅く、既に地盤である浅間第１軽石流が露出している所もある。遺構覆土は、暗褐色土が大半である。



第5図　基本層序模式図

第Ⅰ層　暗褐色土層（10YR3/3）
耕作土

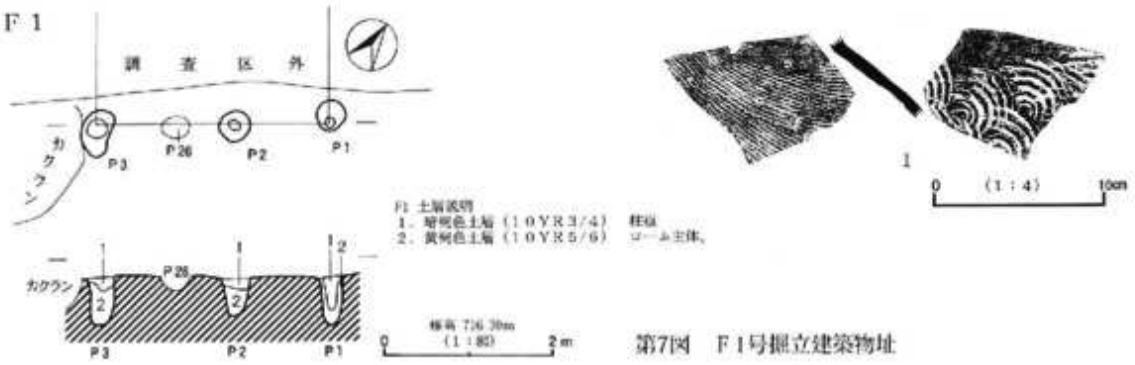
第Ⅱ層　明黄褐色土層（10YR6/8）
（浅間第１軽石流）



第6図　東近津遺跡全体図(1:300)

第1節　掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址(第7図,図版一・四)



第7図　F1号掘立建築物址

第3表　F１号掘立柱建物址出土遺物一覧表（　）推定・〈　〉残量。法量は上から口径・底径・器高

番号	器種	法量	成形・調整・色調		胎土・残存量・他	出土位置
			内面	外面		
F1-1	須恵器甕	－ － －	口縁ヨコナデ→同部円弧文灰（N5/0） 断面　灰褐（7.5YR6/2）	口縁ヨコナデ→同部タタキメ灰（N6/0）	緻密。 石英・長石・黒色粒子を含む。 同部破片	F1　P3

Aお8グリットにあり、北側は調査区域外であるため、規模・形態はわからない。東西2.76m、東西の柱間は異なり、1.6と1.16mを測る。柱穴の規模は短径32～36cm、深さ48～60cmを測り深い。P1では明確な柱痕が残り、堀方はほとんど地山と変わりないロームがみられた。Ｐ３上面より、須恵器甕片が出土している。

須恵器甕は外面に平行タタキメ、内面に同心円のあて具痕を残している。これのみで時期は推定できないが奈良時代以降の遺構であろうか。

第2節　土坑

1）D1号土坑（第8図,図版一・四）

Bく1グリットにあり、西と南はカクランにより壊され、規模・形態は不明である。北東隅が残存し隅丸方形を呈するものと推定される。深さは14cmで浅く、底面は平坦である。覆土は暗褐色土である。土師質皿が出土している。

土師質皿は口縁部から底部が内湾気味である。時期は破片で全器形が明らかでないが近世であろうか。

2）D2号土坑（第8図,図版一・四）

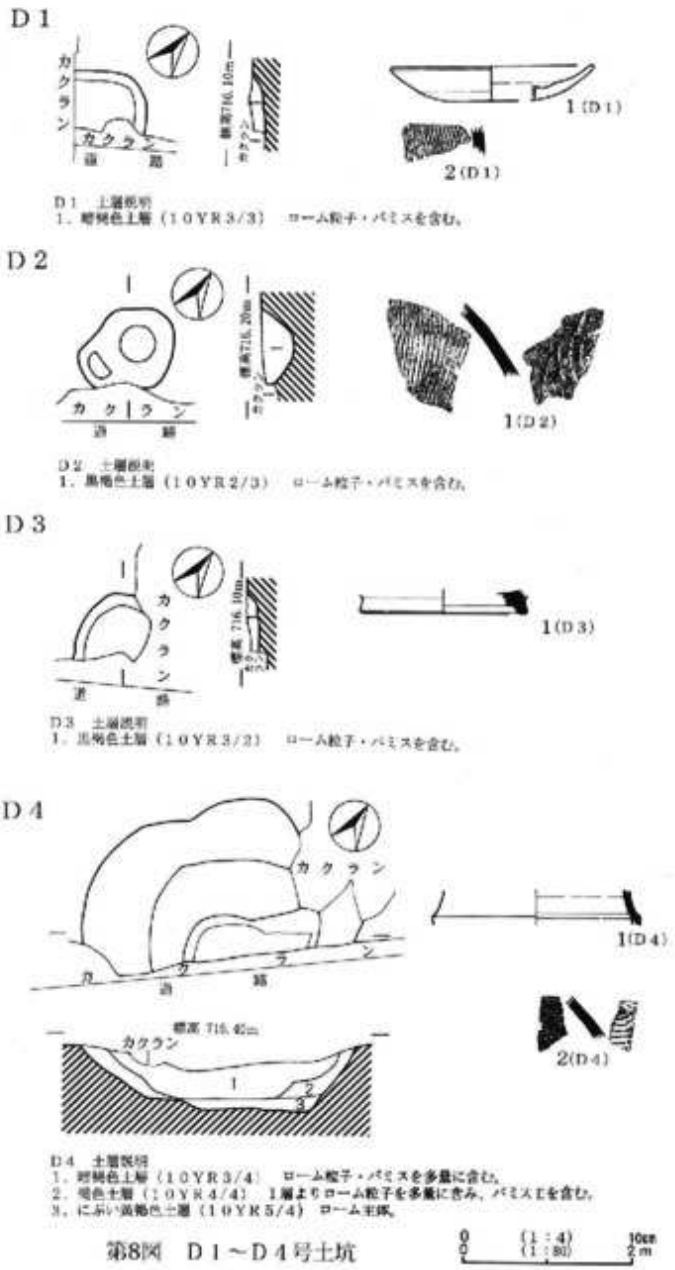
Aき10グリットにあり、南側一部をカクランに壊される。楕円形を呈しテラスをもつ。長軸120cm、短軸100cm、深さ38cmを測る。覆土は黒褐色土層である。遺物は須恵器甕片が出土する。

3）D3号土坑（第8図,図版一・四）

Aき10グリットにあり、南と東をカクランに壊され、形態・規模は不明である。残存部からは円形を呈すと推定される。深さ17cmを測り、底面は平坦である。出土遺物には須恵器高台付杯の高台部がある。

4）D4号土坑（第8図,図版二・四）

Aう7グリットにあり、カクランに南側を切られ全容は明らかでない。東西324cm、深さ81cmを測る。円形を呈すが、底面形は方形基調である。覆土は暗褐色土層である。出土遺物は須恵器壷、須恵器甕、土師器鉢（内面黒色処理）、武蔵甕片の小破片がある。



D１　土層説明
1．暗褐色土層（１０ＹＲ３/３）　ローム粒子・パミスを含む。

D２　土層説明
1．黒褐色土層（１０ＹＲ２/３）　ローム粒子・パミスを含む。

D３　土層説明
1．黒褐色土層（１０ＹＲ３/２）　ローム粒子・パミスを含む。

D４　土層説明
1．暗褐色土層（１０ＹＲ３/４）　ローム粒子・パミスを多量に含む。
2．褐色土層（１０ＹＲ４/４）　１層よりローム粒子を多量にきみ、パミス工を含む。
3．にぶい黄褐色土層（１０ＹＲ５/４）　ローム主体。

第8図　Ｄ１～Ｄ４号土坑

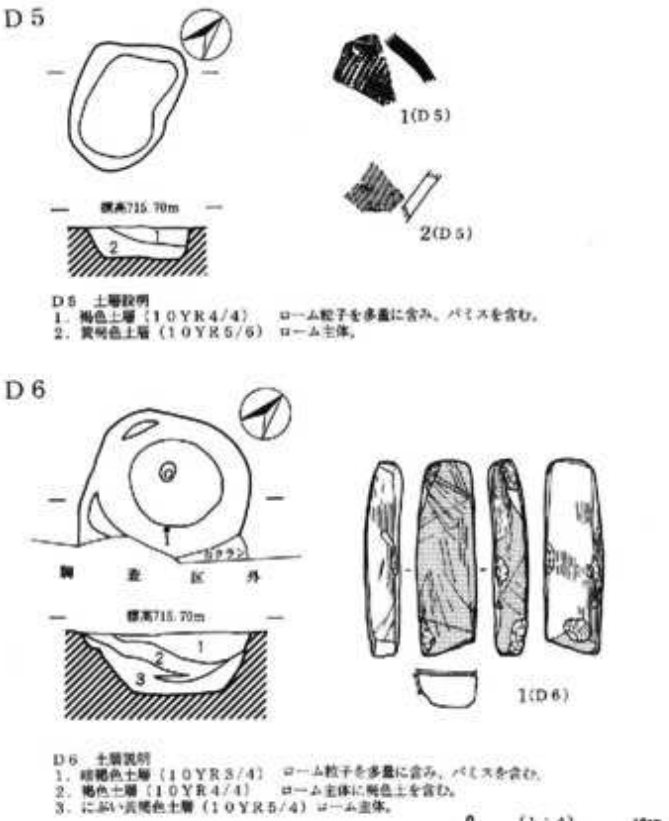
5） D5号土坑(第9図,図版二・四)

Bけ3グリットにあり、D6と東でわずかに重複し切る。長軸156cm、短軸116cm、深さ44cmを測り、楕円形を呈す。覆土は褐色土である。出土遺物には須恵器甕片と、鉄釉擂鉢の破片がある。擂鉢破片は上面のカクランから出土し近代のものである。

6） D6号土坑(第9図,図版二・三・四)

Bく2グリットあり、南端は調査区外で一部未調査である。径194cm、深さ90cmの円形土坑である。覆土は暗褐色土である。底面は平坦で、南壁中位より、砥石が出土している。

砥石は凝灰岩製で、スリ面と櫛歯状の使用痕が残る。



第9図 D5・D6号土坑

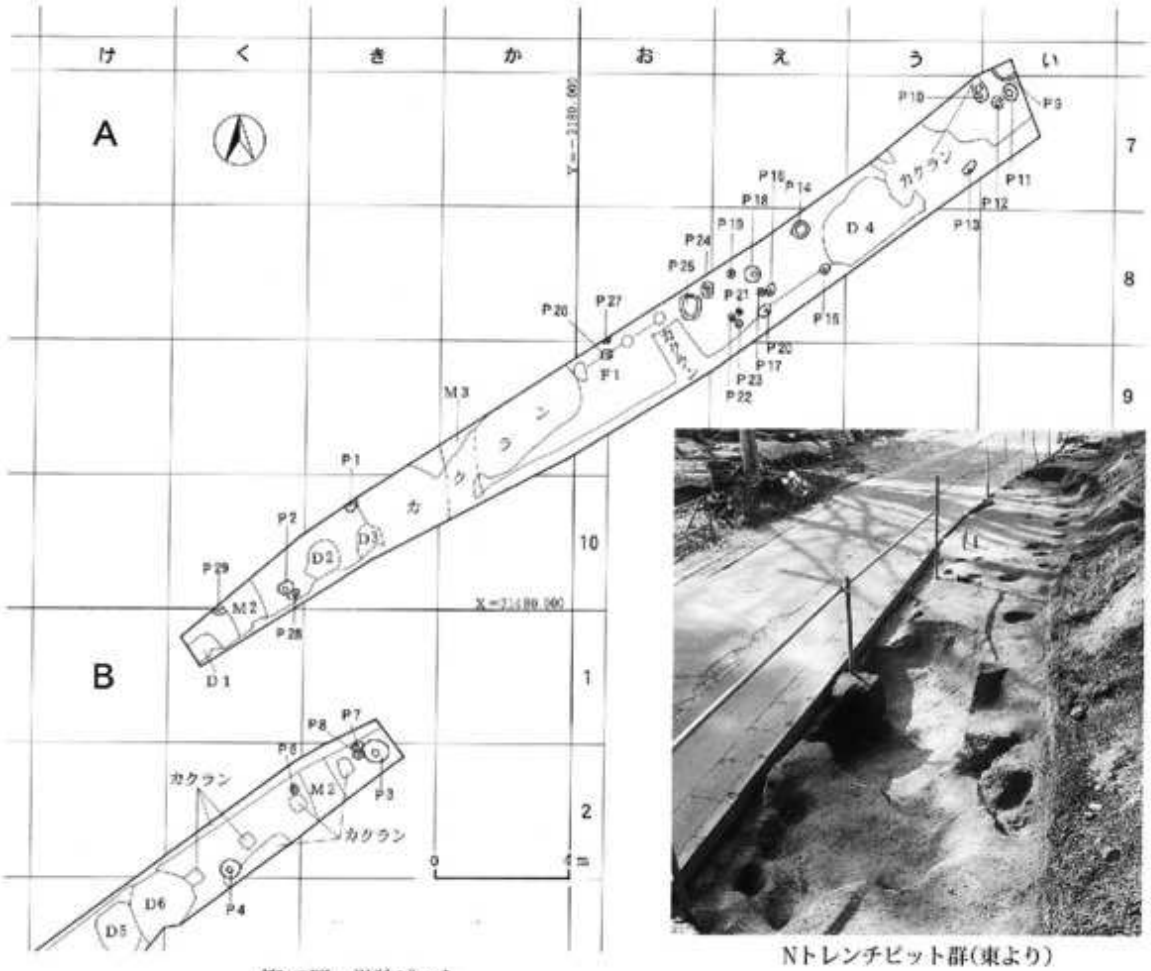
第4表 土坑出土遺物一覧表 （ ）推定・〈 〉残存、法量は上から口径・底径・器高

番号	器種	法量	成形・調整・色調 内面	成形・調整・色調 外面	胎土・焼存量・他	出土位置
D1-1	かわらけ 皿	(11.2) (5.6) 2.1	ロクロナデ 浅黄橙（10YR8/3）	ロクロナデ→底部切り離し 浅黄橙（10YR8/3）	細礫、厚1mm以下の石英・赤色粒子・黒色粒子を含む。 口縁1/8、底部1/12	D1
D1-2	須恵器 甕	— — —	ナデ 灰白（2.5Y8/1）	タタキメ 黄灰（2.5Y6/1）	細石英・細長石を含む。 破片	D1
D2-1	須恵器 甕	— — —	同心文 灰（N5/0）	タタキメ 灰（N6/0）	細石英・径3mm以下の長石・石英を含む。 破片	D2
D3-1	須恵器 高台付杯	(10.0) (1.4)	ロクロナデ 灰白（5Y8/1）	ロクロナデ→底部切り離し→ 高台貼付 にぶい橙（7.5YR7/3）	細石英・径1mm以下の長石を含む。 底部1/8	D3
D4-1	須恵器 壺	— — 2.1	ロクロナデ オリーブ灰（2.5GY5/1）	ロクロナデ 灰（N5/0）	細石英・細長石・細黒色粒子を含む。 破片 外面自然釉付着	D4
D4-2	須恵器 甕	— — —	同心文 灰（N6/0）	ヨコナデ 灰（N5/0）	細石英・細長石を含む。 破片	D4
D5-1	須恵器 甕	— — —	ヨコナデ 灰黄（2.5Y6/2）	タタキメ 黄灰（2.5Y6/1）	細石英・細長石を含む。 破片	D5
D5-2	鉄釉 擂鉢	— — —	錆釉 にぶい赤褐（2.5YR5/4）	錆釉 暗赤褐（2.5YR3/3）	細礫 破片	D5カクラン

番号	種類	長さ（cm）	巾（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	出土位置
D6-1	砥石	11.6	3.5	2.1	99.3	凝灰岩、スリ面3	No.1

第3節　単独ピット（第10図）

本遺跡から29個のピットが検出された。柱痕が観察できないものは木の根の可能性もあり、柱穴とはいえないものも含む。



第10図　単独ピット

Nトレンチピット群（東より）

単独ピットP3（北より）

Nトレンチピット群P14～P25（北より）

第4節　溝址

1）M1号溝址（第11図,図版三・四）

Bけ3～Cう6グリットにあり、現道の南側に沿って東西に走る溝である。底面は非常に締まり、底面上面は砂粒層がのっていた。現舗装道路前の道路跡である。

出土遺物は奈良～平安の高台付杯片と近代のガラス玉、製品不明の磁器片が出土する。

2）M2号溝址（第11図,図版三・四）

調査区中央で南北に走る溝である。幅80～115cm深さ８～19cmを測る。覆土は暗褐色土で、流路の痕跡はない。

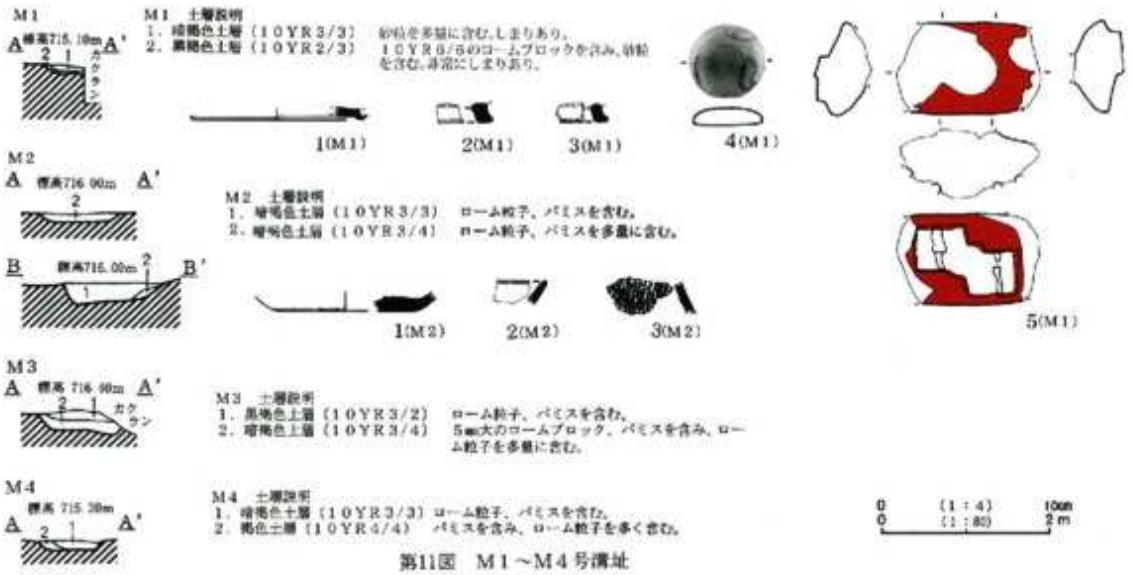
出土遺物は須恵器杯、須恵器甕片がある。須恵器杯は底部回転糸切り離しである。奈良・平安時代以降の溝であろう。

3）M3号溝址（第11図,図版三・四）

Aか9～Aか10グリットにあり、カクランに大半を壊される。セクション面で幅104cm、深さ21～24cmを測る。覆土は黒褐色土である。出土遺物はない。

4）M4号溝址（第11図,図版四）

Bこ4～Cあ4グリットにあり、M１に切られ、カクランに壊される。幅58～78cm、深さ６～16cmを測る。覆土は暗褐色土である。流路の痕跡はない。出土遺物はない。



第11図　M１～M４号溝址

第5表　溝址出土遺物一覧表　　（ ）推定・〈 〉残量。法量は上から口径・底径・器高

番号	器種	法量	成形・調整・色調 内面	成形・調整・色調 外面	胎土・残存量・他	出土位置
M1-1	須恵器 高台付杯	– (10.4) 〈0.7〉	ロクロナデ 黄灰（2.5Y5/1）	ロクロナデ→底部切り離し→高台貼付 黄灰（2.5Y5/1）	細石英・径1mm以下の長石・黒色粒子含む。 高台1/16	M1
M1-2	須恵器 高台付杯	– – –	ロクロナデ 黄灰（2.5YR6/1）	ロクロナデ 黄灰（2.5YR6/1）	細密 細石英含む。 高台一部残存	M1
M1-3	須恵器 高台付杯	– – –	ロクロナデ 灰（7.5Y6/1）	ロクロナデ 褐灰（10YR5/1）	細密 細石英・縫長石含む。 高台一部残存	M1
M1-4	ガラス おはじき	4.2 4.2 1.0			完形	No.1

番号	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	残存・産地・年代・備考	出土位置
M1-5	鉄釉？	–	–	–	内（釉）2.5YR3/4（岩赤褐） 外（釉）N8/0（灰白）	破片	No.2，No.3

番号	器種	法量	成形・調整・色調 内面	成形・調整・色調 外面	胎土・残存量・他	出土位置
M2-1	須恵器 杯	– (8.8) 〈1.1〉	ロクロナデ 灰黄（2.5Y7/2）	ロクロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズリ 浅黄（2.5Y7/3）	細石英・径1mm以下の長石・黒色粒子含む。 底部1/8	M2
M2-2	須恵器 杯	– – –	ロクロナデ 灰黄褐（10YR6/2）	ロクロナデ 灰黄褐（10YR6/2）	細石英、縫長石含む。 口縁破片	M2
M2-3	須恵器 甕	– – –	不明（浜縫のため） 断面　灰褐（7.5YR6/2）	タタキメ 灰（N5/0）	細石英・径1mmの長石・黒色粒子含む。 破片	M2

第5節　トレンチ出土遺物（第12図・図版四）

検出及びカクランより出土した遺物を掲載した。古墳時代後期土師器甕、奈良～平安時代の須恵器鉢・杯・甕、土師器杯片が出土している。また現舗装道路に沿うカクランからは近代の陶磁器・鉄製品が出土した。

第12図　トレンチ出土遺物

第6表　トレンチ出土遺物一覧表　（　）推定・〈　〉残量、法量は上から口径・底径・器高

番号	器種	法量	成形・消整・色調 内面	成形・消整・色調 外面	胎土・残存量・他	出土位置
1	須恵器鉢	(21.0) - (2.1)	ロクロナデ 灰（5Y6/1）	ロクロナデ 灰（N4/0）	細石英・細長石・径1mm以下の黒色粒子含む。 口縁破片	Nトレ検出
2	須恵器杯	- - -	ロクロナデ 灰（N6/0）	ロクロナデ 灰（N5/0）	細石英・細長石含む。 口縁破片 自然釉付着	Nトレ検出
3	須恵器甕	(20.6) - (1.8)	ロクロナデ にぶい黄橙（10YR7/4）	ロクロナデ にぶい黄橙（10YR7/3）	細石英・径1mm以下の長石・赤色粒子含む。 口縁破片	Nトレ
4	須恵器甕	- - -	ヘラナデ（横目）後ナデ 灰黄褐（10YR4/2）	タタキメ 褐灰（10YR6/1）	細石英・径1mm以下の黒色粒子含む。 破片	Nトレカクラン

番号	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	残存・産地・年代・備考		出土位置
5	染付鉢	-	-	-	（地）白	口縁破片		Nトレカクラン
6	染付皿	(14.4)	-	(3.5)	（地）白	口縁1/4		Nトレカクラン

番号	種類	長さ（cm）	巾（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	出土位置
7	鉄製	(10.1)	0.9	0.5	20.5		Nトレ現道カクラン
8	鉄製釘	(4.3)	0.8	0.5	3.6		Nトレ現道カクラン
9	石臼	(3.9)	(2.8)	0.2	3.8	スリ面3	Nトレ現道カクラン

第V章　まとめ

本遺跡では掘立柱建物址、ピット群、土坑、溝址が検出された。M1号溝址が道路跡で近代、D1号土坑が近世であろうと推定できる。他の遺構の時代は明確ではない。しかしながら第３図に示したように周辺では弥生時代後期から平安時代までの竪穴住居址が検出されている。ことに隣接する、北近津遺跡と西近津遺跡では古墳時代中期の竪穴住居址が検出されている。本遺跡でも古墳時代後期から奈良・平安時代の土器片が出土しており、近接して竪穴住居址が存在することが想定される。

引用参考文献

1971　佐久市教育委員会『佐久市長土呂西近津遺跡緊急発掘調査概報』

1972　佐久市教育委員会　『北近津・戸坂』

1984　佐久市教育委員会『若宮遺跡』（周防畑遺跡群）

1989　佐久埋蔵文化財センター『森下』

1992　佐久埋蔵文化財センター『三貫畑』

1992　佐久埋蔵文化財センター『周防畑遺跡群若宮遺跡Ⅱ』

1999　佐久市教育委員会『南近津遺跡』

掘立柱建物址

遺構名	様式	検出位置	桁行×梁間（間）	桁行×梁間（m）	桁行柱間（m）	梁間柱間（m）	長軸方位	柱穴規模 短径（cm）	柱穴規模 深さ（cm）	備考
F1	—	Aお8	1×-	2.76×-	1.6・1.16	—	N-59°-E	32～36	48～60	北側調査区外

土坑

〈残〉　（推定）

遺構名	検出位置	平面形	長軸長（cm）	短軸長（cm）	深さ（cm）	長軸方位	備考
D1	Bく1	—	〈88〉	〈70〉	14	N-57°-E	西側・南側カクランに切られる。
D2	Aき10	楕円形	120	100	38	N-29°-E	カクランに切られる。
D3	Aき10	—	〈88〉	〈76〉	17	N-5°-W	カクランに切られる。
D4	Aう7		324	〈186〉	81	N-60°-E	カクランに切られる。
D5	Bけ3	楕円形	156	116	44	N-25°-W	D6を切る。
D6	Bく2	円形	194	〈62〉	90	N-82°-E	カクランに切られる。D5に切られる。

溝址

〈残〉　（推定）

遺構名	検出位置	長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）	備考
M1	Bけ3～Cう6	〈17.85〉	〈0.35〉～〈0.7〉	3～13	M4を切る。カクランに切られる。
M2	Aく10～Bき2	〈7.20〉	0.8～1.15	8～19	P29を切る。カクランに切られる。
M3	Aか9～Aか10	〈1.80〉	1.04	21～24	カクランに切られる。
M4	Bこ4～Cあ4	〈2.25〉	0.58～0.78	6～16	M1、カクランに切られる。

単独ピット

〈残〉　（推定）

No.	位置	規模（cm）長径×短径×深さ	平面形	断面	備考
P1	Aき10	36×〈26〉×37	楕円形	紫褐色土層（10Y R3/3）	北側調査区外
P2	Aく10	40×36×14	円形	紫褐色土層（10Y R3/4）	
P3	Bき2	74×64×22	楕円形	1. 黒褐色土層（10Y R3/2） 2. 暗褐色土層（10Y R3/4）	
P4	Bく2	60×〈52〉×23	円形	1. 黒褐色土層（10Y R2/3） 2. 黒褐色土層（10Y R3/3）	カクランに切られる。
P5	Bこ4	22×22×15	円形	1. 紫褐色土層（10Y R3/4） 2. 褐色土層（10Y R4/6）	
P6	Bく2	26×24×9	円形	黒褐色土層（10Y R3/4）	
P7	Bき2	38×24×9	楕円形	暗褐色土層（10Y R3/4）	P8を断面中間
P8	Bき2	36×26×8	楕円形	暗褐色土層（10Y R3/4）	P7を断面中間
P9	Aい6	〈64〉×〈52〉×17	—	1. 紫褐色土層（10Y R3/3） 2. 褐色土層（10Y R4/4）	北側・東側調査区外
P10	Aう7	48×40×41	楕円形	1. 紫色土層（10Y R4/4） 2. 紫色土層（10Y R4/6）	上側カクランに切られる。
P11	Aい7	46×39×12	楕円形	紫褐色土層（10Y R3/4）	
P12	Aい7	32×28×13	円形	黒褐色土層（10Y R3/4）	
P13	Aう7	50×18×27	楕円形	褐色土層（10Y R4/4）	カクランに切られる。
P14	Aき8	48×44×11	円形	紫褐色土層（10Y R3/4）	
P15	Aき8	30×28×30	円形	1. 黒褐色土層（10Y R3/4） 2. 紫色土層（10Y R4/4）	南側カクランに切られる。
P16	Aき8	40×28×33	楕円形	黒褐色土層（10Y R3/3）	
P17	Aき8	26×24×40	円形	黒褐色土層（10Y R2/3）	
P18	Aき8	46×44×18	円形	暗褐色土層（10Y R3/4）	
P19	Aき8	22×22×20	円形	黒褐色土層（10Y R3/3）	
P20	Aき8	46×36×47	楕円形	黒褐色土層（10Y R2/3）	南側カクランに切られる。
P21	Aき8	19×18×10	円形	紫褐色土層（10Y R3/4）	
P22	Aき8	28×18×12	楕円形	暗褐色土層（10Y R3/4）	
P23	Aき8	22×22×23	円形	黒褐色土層（10Y R3/2）	
P24	Aき8	48×36×23	楕円形	紫褐色土層（10Y R3/4）	
P25	Aき8	76×66×16	楕円形	黒褐色土層（10Y R3/2）	
P26	Aき9	34×26×51	楕円形	褐色土層（10Y R3/4）	
P27	Aき8	28×〈16〉×12	円形	紫色土層（10Y R4/4）	北側調査区外
P28	Aく10	38×26×10	楕円形	黒色土層（10Y R4/4）	
P29	Aく10	〈44〉×〈28〉×19	円形	紫色土層（10Y R4/4）	M2に切られる。上側調査区外

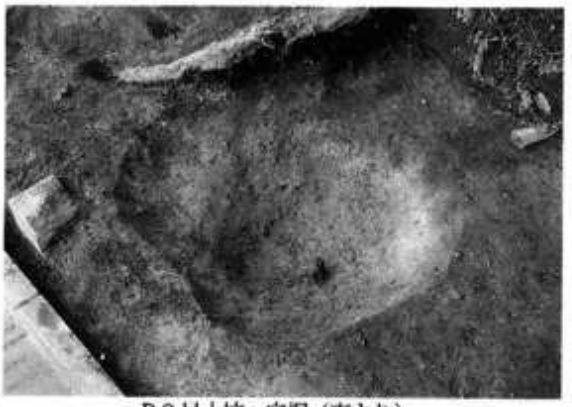
Sトレンチ完掘（東より）

F1号掘立柱建物址（東より）

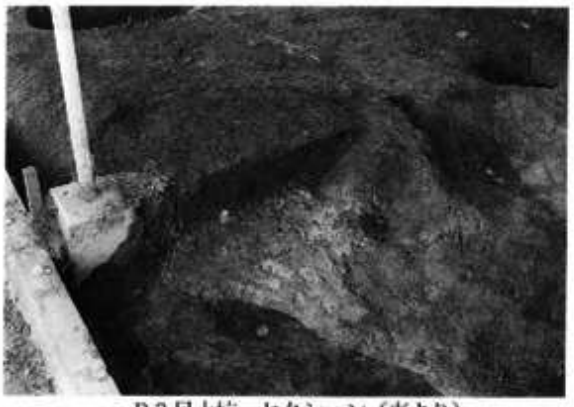
D1号土坑　セクション（東より）

D1号土坑　完掘（北より）

D2号土坑　セクション（東より）



D2号土坑　完掘（東より）



D3号土坑　セクション（東より）

D3号土坑　完掘（東より）

D4号土坑　セクション（南より）

D4号土坑　セクション（南より）

D4号土坑　完掘（南より）

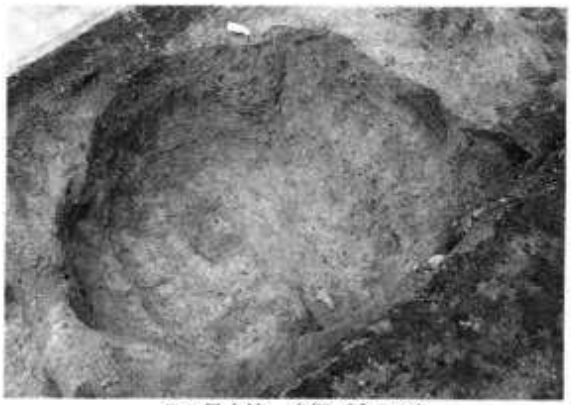
D4号土坑　完掘（西より）

D5号土坑　セクション（南より）

D5号土坑　完掘（南より）

D6号土坑　セクション（北より）

D6号土坑　完掘（東より）



D6号土坑　完掘（南より）

D6号土坑　礫石（北より）

M1号溝址　セクション（東より）

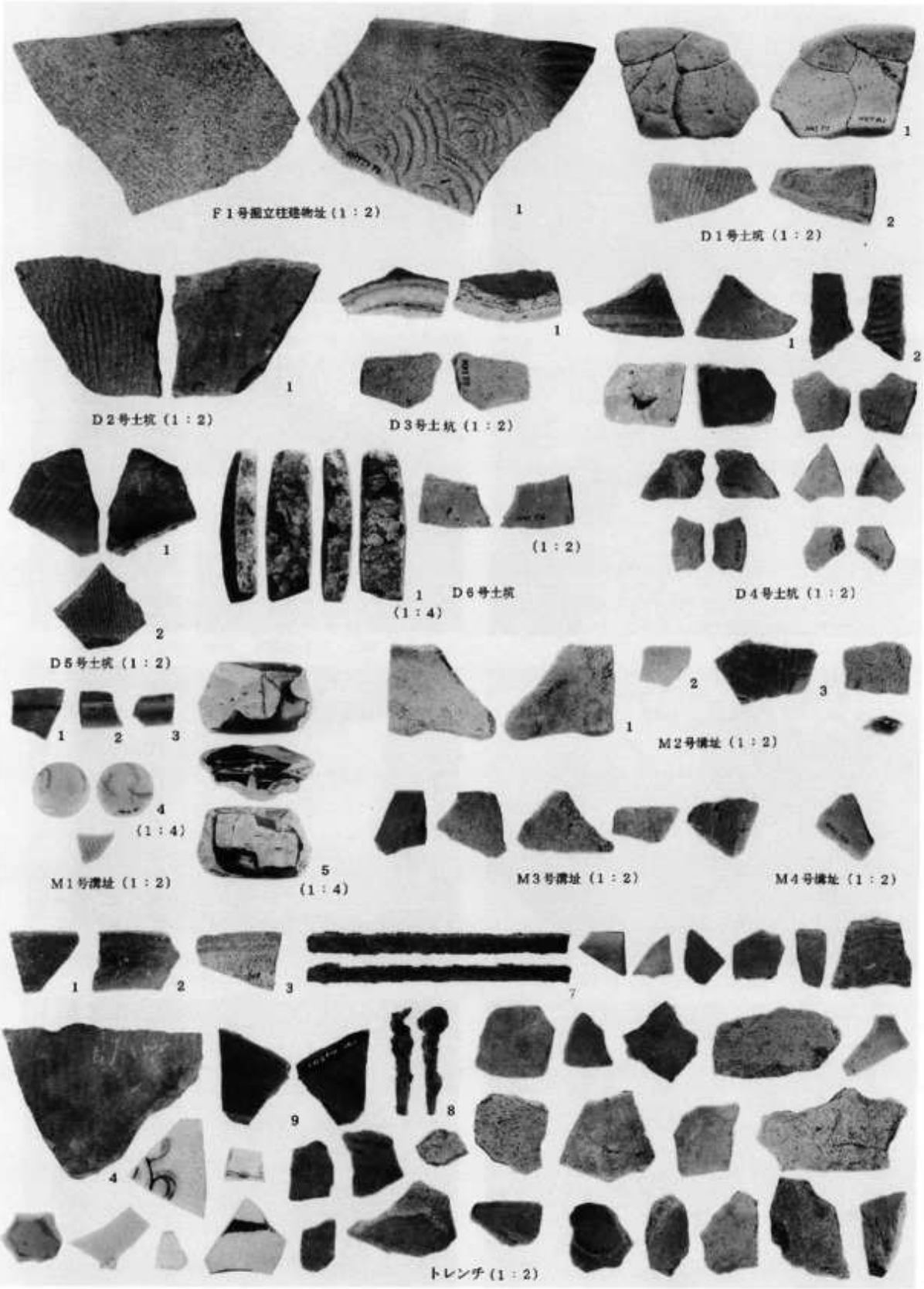
M1・M4号溝址　完掘（南より）

M2号溝址　Nトレンチセクション（南より）

M2号溝址　Sトレンチ完掘（北より）

M3号溝址　セクション（南より）

M3号溝址　完掘（南より）


F1号掘立柱建物址（1：2）
1
D1号土坑（1：2）
1
2
D2号土坑（1：2）
1
D3号土坑（1：2）
1
1
2
D4号土坑（1：2）
1
2
D5号土坑（1：2）
1
(1：2)
1
(1：4)
D6号土坑
1
2
3
4
(1：4)
M1号溝址（1：2）
5
(1：4)
1
2
3
M2号溝址（1：2）
M3号溝址（1：2）
M4号溝址（1：2）
1
2
3
4
7
8
9
トレンチ（1：2）

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第1集　『金井城跡』
第2集　『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集　『石附窯址群Ⅲ』
第4集　『大ふけ』
第5集　『立科F遺跡』
第6集　『上曽根遺跡』
第7集　『三貫畑遺跡』
第8集　『瀧の下遺跡』
第9集　『国道141号線関係遺跡』
第10集　『聖原遺跡Ⅱ』
第11集　『赤座垣外遺跡』
第12集　『若宮遺跡Ⅱ』
第13集　『上高山遺跡Ⅱ』
第14集　『栗毛坂遺跡』
第15集　『野馬久保遺跡』
第16集　『石並城跡』
第17集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
（1月～3月）
第18集　『西曽根遺跡』
第19集　『上芝宮遺跡』
第20集　『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集　『金井城跡Ⅲ』
第22集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集　『南上中原・南下中原遺跡』
第24集　『上聖端遺跡』
第25集　『上久保田向Ⅳ』
第26集　『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集　『上久保田向Ⅲ』
第28集　『曽根新城Ⅴ』
第29集　『筒村遺跡B　山法師遺跡B』
第30集　『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集　『山法師遺跡A　筒村遺跡A』
第32集　『東ノ割』
第33集　『聖原遺跡Ⅶ　下曽根遺跡Ⅰ』
第34集　『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集　『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集　『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集　『西一本柳遺跡Ⅱ　中西ノ久保遺跡Ⅰ』
第38集　『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集　『中屋敷遺跡』
第40集　『寺畑遺跡』
第41集　『曽根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
第42集　『寄山』
第43集　『権現平遺跡　池端遺跡』
第44集　『寺添遺跡』
第45集　『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集　『濁り遺跡』
第47集　『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集　『池端城跡』
第49集　『根々井芝宮遺跡』
第50集　『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集　『寺中遺跡　中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集　『坪の内遺跡』
第53集　『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集　『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集　『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集　『聖原遺跡Ⅹ』
第57集　『高師町遺跡Ⅱ』
第58集　『下穴虫遺跡Ⅰ』
第59集　『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集　『曽根城遺跡Ⅱ』
第61集　『割地遺跡』
第62集　『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集　『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集　『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集　『中裕遺跡』
第66集　『中西ノ久保遺跡Ⅱ　仲田遺跡　寺畑遺跡Ⅱ』
第67集　『供養塚遺跡』
第68集　『前藤部遺跡』
第69集　『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集　『観音堂遺跡』
第71集　『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集　『市道遺跡Ⅱ』
第73集　『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』
第74集　『五里田遺跡』
第75集　『八風山遺跡群』
第76集　『南近津』
第77集　『番屋前遺跡』
第78集　『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』
第79集　『四ツ塚遺跡Ⅰ』
第80集　『四ツ塚遺跡Ⅱ』
第81集　『薬師寺遺跡』
第82集　『市内遺跡発掘調査報告書1998』
第83集　『下聖端遺跡Ⅳ』
第84集　『榛名平遺跡』
第85集　『柳堂遺跡』
第86集　『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第87集　『宮添遺跡』
第88集　『下曽根遺跡』
第89集　『川原端遺跡』
第90集　『梨の木遺跡』
第91集　『西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ・中長塚・松の木遺跡』
第92集　『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
第93集　『入高山遺跡』
第94集　『聖石遺跡』
第95集　『市内遺跡発掘調査報告書2000』
第96集　『上木戸遺跡』
第97集　『久禰添遺跡』
第98集　『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』
第99集　『中道遺跡』
第100集　『野沢館跡Ⅲ』
第101集　『深堀遺跡』
第102集　『円正坊遺跡Ⅳ』
第103集　『聖原　―第1分冊―』
第104集　『聖石遺跡Ⅱ』
第105集　『曽根城遺跡Ⅲ』
第106集　『樋村遺跡Ⅱ』
第107集　『聖原　　第2分冊―』
第108集　『市内遺跡発掘調査報告書2001』
第109集　『西一本柳遺跡Ⅶ』
第110集　『佐久駅周辺土地区画整理事業』
第111集　『上ノ城遺跡』
第112集　『西赤座遺跡』
第113集　『西一本柳遺跡Ⅸ』
第114集　『供養塚遺跡Ⅱ』
第115集　『聖原　―第3分冊―』
第116集　『東大久保遺跡Ⅱ』
第117集　『東五里田遺跡』

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第118集
東近津遺跡
―長野県佐久市長土呂東近津遺跡発掘調査報告書―
2004年3月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市大字中込3056
文化財課
〒385-0006　長野県佐久市大字志賀5953
TEL 0267-68-7321
印刷所　株式会社コックス
〒385-0062　長野県佐久市根岸4051-11